

スポーツ振興特別委員会 県内行政調査

1 調査日 平成 28 年 7 月 29 日（金）

2 調査の概要

(1) 県立琵琶湖漕艇場（大津市玉野浦）

現在、本県において、平成 36 年に開催が予定されている国民体育大会および全国障害者スポーツ大会に係る取り組みが進められているが、とりわけ会場地となる社会体育施設の整備が喫緊の課題となっている。

一方、昨年制定された滋賀県スポーツ推進条例第 16 条では「自然環境等を活用したスポーツ活動の推進」について規定されており、琵琶湖等において行われるスポーツ活動への参加の促進や環境整備などが謳われている。

こうしたことから、本県の特性である琵琶湖を生かした湖上スポーツであるボート競技に係る調査を行うため、同漕艇場を訪問し、施設の現状や課題、利用状況等について調査を行うとともに、ボート競技関係者の皆さんと県民参画委員会を実施し、「本県におけるボート競技の現状や国体等の開催を見据えた今後の展開」について意見交換を行った。



(2) 立命館大学スポーツ健康科学部（草津市野路東）

スポーツ庁の設置や 2020 年の東京オリンピックの開催決定などを契機に、国民の健康志向やスポーツへの関心がますます高まる中、科学的根拠に基づいた運動法や身体活動に関する情報、スポーツ競技力の向上を目指したトレーニング法などの研究の推進は、現代社会の大きなニーズとなっている。

こうした中、平成 22 年に立命館大学びわこ・くさつキャンパスに設置された同学部では、スポーツと健康を科学的視点で捉えた学際的な教育や研究を行い、スポーツ健康科

学分野の専門知識とともに、高度な実践力とリーダーシップを備え、社会の発展に寄与する高度専門職業人や研究者を養成されている。

こうしたことから、同学部を訪問し、「県と同大学とのスポーツや健康づくりの振興に係る包括連携協定の取組状況」や「健康を維持、増進するために運動が果たす役割」などについて、調査を行った。

